

●口内法エックス線撮影の原理 (basic principles of intraoral radiography)

【小テスト】提出期限：5月末まで

講義・演習前に解答したものと、講義・演習後に解答したものの2種類を提出してください

- ◆ 口内法撮影について、次の文で正しいものに○を、間違っているものに×を付しなさい。
- (1) 【 】 照射野は常に円形ないし楕円形である。
 - (2) 【 】 エックス線の中心線に垂直な平面では、照射野内のエックス線の分布は均等である。
 - (3) 【 】 「コーンカット」はコーンによって生じる。
 - (4) 【 】 図1に示すように5mm単位で切り込みを入れた長さ3cmのアルミの棒を二等分法にて撮影した場合、画像上にて、歯冠側での切り込みの間隔(a)と歯根側での切り込みの間隔(b)は同じ長さで映し出される。
 - (5) 【 】 上顎犬歯部の撮影時、咬合平面に対してフィルムは45度以上回転しても良い。
 - (6) 【 】 下顎前歯の撮影ではフィルムの下方に舌を置いても問題ない。
 - (7) 【 】 上顎大白歯のフィルム挿入時、口蓋側咬頭頂から3mmフィルムがでていれば、問題なく撮影できる。
 - (8) 【 】 全顎撮影時には10枚法か14枚法のどちらかに必ず従わなければならない。
 - (9) 【 】 焦点からの距離を2倍にしたとき、管電流を2倍にすれば、同じ濃度の画像を得ることができる。
 - (10) 【 】 被曝線量はデジタル系の方がフィルム系よりも必ず低くなる。
 - (11) 【 】 デジタル系の特性曲線とフィルムの特性曲線は同じである。
 - (12) 【 】 下の図2の①の領域（ドーナツ型の半分）と②の領域（ドーナツ型の半分）とは同じ濃度である。

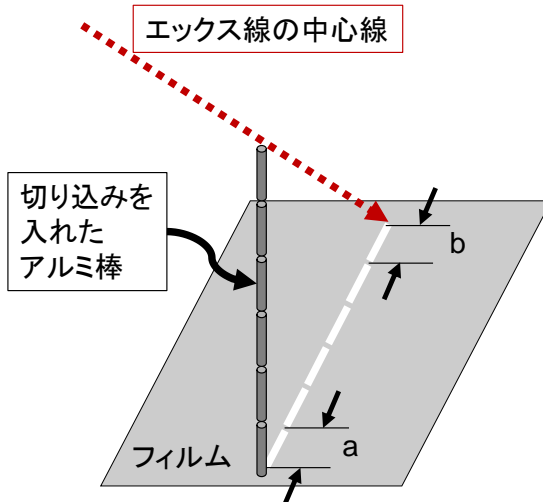


図1

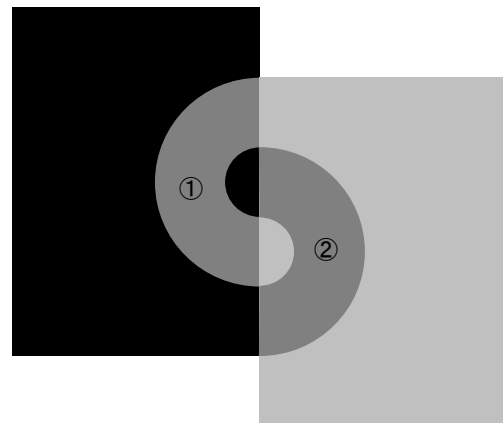


図2